

平成28年度 まちづくり懇談会

宮川地区会場の要旨

平成28年10月4日（火） 19:00～20:45

宮川地区コミュニティセンター 参加者 94名

企画総務部長：みなさんこんばんは。本日は一日の仕事の後のお疲れのところ、まちづくり懇談会にご出席いただき、大変ありがとうございます。わたくしは本日の進行を務めさせていただきます、企画総務部長の柿澤と申します。どうぞよろしく願いいたします。それでは定刻となりましたので、宮川地区まちづくり懇談会を始めさせていただきます。はじめに柳平市長より挨拶を申し上げます。

市長：みなさんこんばんは。一日のお仕事のお疲れの後、まちづくり懇談会、大勢の皆さんにご参加いただきありがとうございます。この宮川会場が、今年度のまち懇の第1回目となります。こうして皆さんにお行き合いましたことをうれしく思います。さて秋になりまして雨の日ばかりという状況でございます。いろいろな方面に影響が出ておまして、特に稲刈りができずに大変だと拝察しております。大雨も山間部であり、心配している。そんな雨にも負けず小宮祭が開催されております。宮川地区でも何箇所かお邪魔をさせていただきました。小さな子どもから高齢の方まで一緒になって御柱に関わっている姿をみますと、この祭を通して区民の絆をより深く、堅く結んでほしいなと思いますし、今日のテーマにも出てきますけれども、地域コミュニティをいかにしっかりと築いていくかということのいい例といいますか、参考にしていかなければいけないことがたくさんあるかなと思います。また昨日から市内のバス路線が再編されまして、新しい運行体系でスタートしております。宮川の時刻表が各戸に行っていますよね。それを見ていただいて、新しいバス路線を調べていただきたい。10月14日まで無料キャンペーンをやっております、ぜひ乗車していただきたいと思います。すべての路線が無料というわけではありませんので、対象のバスにはその旨のチラシが貼ってありますので、ぜひ乗車いただきたいと思います。まだスタートしたばかりですけれども、市民の皆さんの利便性が少しでも良くなるようにと再編をしたわけですが、かえって都合が悪くなったところもあるかと思えます。ぜひ多くの方に検討していただいて、次のチェンジに活かしていきたいと思えます。今日は正面にありますように、「茅野市の未来予想図」皆さんと大いに語りたいたと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

企画総務部長：続きまして、このまちづくり懇談会は、宮川地区コミュニティ運営協議会と共催で実施をしております。それでは宮川地区コミュニティ運営協議会、濱会長様ご挨拶をお願いいたします。

宮川地区コミュニティ運営協議会会長：みなさんこんばんは。本年、宮川地区コミュニティ運

宮協議会会長をやらせていただきます濱と申します。任期2年で、2年目となります。あと6か月となります。本年は皆さんご存じかと思いますが、この会は各会長さんをお呼びして例年6、7月の総会を持って、予算編成をしてやっていくわけですが、本年度は御柱等があつてなかなか日程が取れませんでした。皆さんにはお忙しいところと思われましたので、幹事会の先件事項としまして承認させていただき皆さんにご報告させていただいております。ご了承いただきたいと思います。初めてなので、運協は何をしているんだと思う方もいると思います。地域を健康で明るく住みよい街づくりを推進されているそれぞれの会の問題点とかありましたら、地域のつなぎ役としてこの会で調整をしているということをやっている団体でございます。私は2年目になるんですが、いろんな団体からそういう話が出てこなかったり、この団体が分かりにくいので意見を出しにくいということがあったんですが、宮川地区はそれぞれの環境、福祉、教育とあるわけですが、なかなか部長さんを通していろいろやるということも難しいと思います。部長さんたちを無視するわけではありませんが、何かありましたら事務局、地区センターがなっているので言っていればと思います。簡単に言いますとどこ行ったらいいか分からないこと。現在県道の拡幅工事が進んで、これから上川橋の架け替えが行われようとしています。そんなことも宮川の大きなまちづくりのことだと思います。どこでこのことが進んでいるのか、どこに聞けばいいのか分からない人もいるかと思いますが。そんなときはぜひ頼っていただきたいと思います。前段が長くなりましたが、本日はまちづくり懇談会の初っ端で、大変たくさんの意見も出るかと思いますが。テーマが「茅野市の未来予想図」となっております。難しければ宮川はこうなってほしいという、こうあるべきだというような意見を出していただければと思います。たくさんの意見を出していただきますようお願いしまして挨拶とさせていただきます。今日はよろしく申し上げます。

企画総務部長：ありがとうございました。それでは次に市側の出席者をご紹介しますと思います。まず樋口副市長です。

副市長：こんばんは。日頃お世話になっております。今日はよろしく願いいたします。

企画総務部長：続いて山田教育長です。

教育長：こんばんは。10月1日付をもって新しい教育長となりました。どうぞよろしく願いいたします。

企画総務部長：続きまして福島市民活動センター準備室長です。

市民活動センター準備室長：市民活動センター準備室長の福島です。よろしく願いいたします。

企画総務部長：依田西部保健福祉サービスセンター長です。

西部保健福祉サービスセンター長：よろしくお願いいたします。

企画総務部長：五味宮川地区コミュニティセンター所長です。

宮川地区コミュニティセンター所長：日頃からお世話になっております。五味です。よろしくお願いいたします。

企画総務部長：続きまして、北沢秘書広報課長です。

秘書広報課長：北沢です。よろしくお願いいたします。

企画総務部長：小平企画戦略課長です。

企画戦略課長：よろしくお願いいたします。

企画総務部長：加賀美大学準備室長です。

大学準備室長：よろしくお願いいたします。

企画総務部長：そして私、企画総務部長の柿澤と申します。よろしくお願いいたします。続きまして、地元の市議会議員のご紹介させていただきたいと思います。両角秀喜議員さんです。

両角秀喜議員：両角秀喜です。今日は皆様のご意見をお聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。

企画総務部長：伊藤玲子議員さんです。

伊藤玲子議員：こんばんは。どうぞよろしくお願いいたします。

企画総務部長：続きまして本日の日程と発言の際のお願いをいたします。このあと本日のテーマ「茅野市の未来予想図 大いに語ろう！みんなで作るみんなの茅野市」の資料の説明を市長が行います。おおむね30分の説明となります。そのあと7時45分くらいを目安にテーマに関する意見交換を市長進行の下で8時30分くらいまでさせていただきたいと思います。そのあと

まちづくり関わる課題や地域課題などについて意見交換をさせていただき、遅くとも9時ころまでにはこの懇談会を閉じさせていただければと思いますのでよろしくお願いをいたします。なお、発言の際のお願いですけれども、後日回答などご連絡をさせていただく場合もあるかと思っておりますので、ご発言をされる際には、集落名、氏名を言っていただけるようにご協力をお願いいたします。次にアンケートについて、本日入口でピンク色のアンケートをお配りいたしました。お帰りの際にアンケートに記入をしていただき、受付にお出してください。それではことあとは市長の方で進行をお願いいたします。

市長：はじめにこれは職員が用意してくれた水ですけれども、FIREFLYとって、おしゃれで安曇野市で作っている水ですが、茅野にもおいしい水があるということで、11月くらいになれば非売品ですが、こういったときの会議に使う茅野市の水を作っています。蓼科の水源の水で、たぶんこれよりもうまいと思います。出来上がり次第皆さんに、いろいろな会議の時にそれを使って、他所から来た人にも茅野市の水をPRしたいと思っております。

それでは本年度のテーマですけれども、茅野市の未来予想図大いに語ろう！ということでございます。なぜこのテーマを選んだかと言いますと、今茅野市は第4次の総合計画でまちづくりを進めています。いわゆる市民プランということで、平成20年に皆さまと一緒に作りました。これが来年度で終了します。30年からは次の第5次総合計画を進めていくということで、また10年間の計画になろうかと思っております。10年後を見据えて、どんなことを盛り込んでいかなければいけないか、皆さんのご意見をお聞きしたいと思ひまして、今日はこのテーマにさせていただきました。特に若い皆さんに、こんな茅野市にしたい、宮川にしたいという思いをお聞かせ願えればと思ひます。これまでの10年と言ひましても、いろいろあるわけですが、特徴的な部分、産業的な部分で振り返ってみたいと思ひます。まず茅野市の人口推移ですけれども、昨年総合計画を立てるときにもお示ししました。平成17年をピークに人口が減ってきている。だけど世帯数は増えていますね。核家族化であったり少子化であったり、あるいは高齢者だけの世帯が増えてきているという状況であると思ひます。このことはなかなかコミュニティの中において、どういう支えあいの形を作っていかなければいけないかということになってくるかと思ひます。ただ県内の人口動向をみますと、茅野市はかなりがんばっているといったらおかしいですが、増えているのは松本市。次に塩尻市が減少率が少ない、三番目が茅野市ということで、松本、塩尻はセイコーエプソンのおかげかなと。今諏訪の本社には800人くらい。塩尻は4000人とかの従業員が仕事をなさっている。その中で、茅野市もまだ元気があるまちだと思ひます。企業やすべての皆さんがいいまちづくりをしてくれている、そんな表れかなと思ひます。

工業ですけれども、規模の推移はリーマンショック、平成21年ですか、影響が工業関係では大きく、ガクンと減りました。人口も外国籍市民の方が離れたりとかで減少した。今出荷額が約2000億円となっています。このまま右肩上がりで行っていただければいいんですが、これも放っておいてはなかなかそうはいかないわけで、これからの取組が必要になってきます。

観光客も平成23年に一番落ち込んだ底でした。東日本大震災があつて、そこから若干ですが

増えてきています。ただピークに持っていくにはかなり投資していかなければならないと思います。これからの10年の大きな課題だと思います。のちほど触れさせていただきます。特に蓼科、白樺、車山というグラウンドは年配の方は非常に皆さんご存じで、若いころビーナスラインを走ったとか林間学校や修学旅行で来たよとかが多いですが、若い方には非常に認知度が低い。高齢の方の認知度が高いわけですから、10年あるいは15年後には残念ですがけれどもその方たちは遊びに来られない年代になってくる。ここで何らかの手を打たないと10年後、15年後にまた一段と落ち込んでしまうと心配しているところがございます。

それから農業経営の推移ですけれども、担い手不足で軒数が減ってきています。平成25年にアンケートをいたしました。2500軒くらいにアンケートをしました。当時、10年以内に農業をやっていらなくなるだろうという方が74%いました。それから3年経っているわけですから、その状況はより深刻になってきていると思います。やはりこの農業をいろいろな産業とどう結びつけていくか、とても大きなテーマになってきていると思っています。

そのことを踏まえて、重要なテーマといたしまして、皆さんと意見交換していきたいと思いますが、毎年市民アンケートを実施しています。33項目において重要度、満足度を調査していただき、1500人の方に無作為抽出で発送させていただき、昨年度は595人から回答を得ました。39.7%ということで、30%あればこのようなアンケートは有効だと言われているので、信頼できるデータといえますか、参考になるデータだと思います。これが満足度の上位、こちらが重要度の上位です。循環型社会の実現というのが、満足度も重要度も高い。これは茅野市が美サイクル茅野さんを中心に、生活環境、自然環境等に力を入れてきた成果かなと思いますし、福祉の関係に対して、満足度、重要度が高い。これも福祉21を始めとして取り組んできたおかげかなと思います。また重要度では、最近のいろいろな天災に対する意識の高揚といえますか、災害に強い安全なまちづくりの重要度が高いという結果が出ています。ただこれは毎年やっていますが、あまり順番が変わっていないという結果です。それを全項目入れ込んだのがこの資料でありまして、1点～5点の点数で配分しております。すべて平均以上にきていますので、自慢していいのか、茅野市はいいことをしてきていると解釈してもいいかなと思います。ただこれをより詳しく見たのがこちらにありまして、縦が重要度が高いもの、横が満足度が高いものですので、右上にあると重要なことで満足しているというもので、どれもここに集まればいいですけれどもそうはいかずに、このような分布になっています。これから産業系は重要度は高いんですけども、まだ満足していないという声も含めて見えてきますし、福祉の関係は重要視しているの見えてきます。それから教育に対しての意識も高いと見えてきますし、福祉、防災を含めた地域コミュニティの充実、産業振興、10年20年あるいは100年後を目指す子育て教育がこれからのまちづくりに重要になってくるのではないかとスポットを当ててみました。

そんなことからまず一つとして、地域や家族で支えあう仕組みづくり、先程小宮の話もしましたけれども、これからますます地域で支えあうという形を、茅野市はこれまで模索といえますか取り組んできたわけですがけれども、もっともっとそのことが重要になってくるのかなと。これからは地域包括ケアという地域医療、福祉、介護それから防災等、その地域で一定の支え

合いをしていくことを国は考えています。これはつい先日ですが、新しい介護制度の中で、要支援Ⅰ、Ⅱ、要介護Ⅰ、Ⅱの軽度の方の費用負担が高くなるよと新聞記事が出ていましたけれども、国としても毎年1兆円と増えていく社会保障費をどうしていくかは大きい課題になっています。国の借金は1千兆円を超えているということですので、そういうことを考えますと、かなりの借金をしているということですので、企業や家庭に置き換えればそう安穩としていられない経済、日本の財政になろうと思います。そういったことも踏まえてコミュニティの充実や仕組みづくりは重要になってくるのではないかと思います。それからまちの活力を向上させていかなければならない。産業振興を含めた取組。そして私はどんなに苦しくても米百俵ではないですが、教育をしっかりしていかなければいけない。子育て、教育に力を割いていかなければいけない。今茅野市では特色ある教育をしていますけれども、これをやっていく仕組みとしてあらゆる主体、行政であったり、地域であったり、地域コミュニティであったりあるいは企業や個人であったり、協同のまちづくりをしていかなければならない。これからのまちづくりの重要なテーマではないかと思っています。というわけで茅野市の未来予想図を考えてみました。10年後の姿という視点で見てもらえればと思います。まず地域コミュニティのさらなる充実ということで支えあう仕組みづくりができる10年後であってほしいなと思います。それからベースとなるのは区、自治会になるかと思っています。その中で防災であったり、高齢者支援であったり子育て支援であったり、あるいはこれから移住定住を考えるとそういった方も受け入れられる、またその地域のお宝を大事にできる、そんな地域ができて、ぜひそうしたいなと思います。それには家族のあり方を考えていかなければいけないと思いますし、今多世帯が同居している方が少なくなっています。これが今よりも増えてきてくれればいいなと思います。

まちの魅力の向上で、ひとつは理科大の公立化を進めていますけれども、せっかくここに大学があります。大学というところはいろんな可能性を引き出してくれます。諏訪東京理科大学を中心としたさまざまなまちづくりに取り組んでいかなければもったいない。10年後は理科大をひとつの核として、講義はもちろんですけども、いろんな連携がとれた元気なまちづくりができるイコールここに多くの学生が来てくれる、このまちのために一役かってくれている、そんな未来であってほしいと思います。

もうひとつがこの茅野市は観光を切り口としたまちづくりをしていくべきだろうと思います。茅野市は本当にいろんな要素に恵まれています。恵まれすぎていて今まで何もしてこなかったという帰来もあるんでしょうけれども、「CHINOまるごと観光地～選ばれる観光地域～」になっていくということでございます。のちほど観光まちづくり推進室長から話をさせようと思っておりましたが、今日は都合で来ていないということですので補足したいと思います。ポイントは観光地でなく観光地域として取り組んでいく。具体的に言えば、今茅野市観光協会があります。私がお協会長をしておりますが、観光協会は観光事業者の組織です。そうでなく、観光事業者も当然入りますけれども、もっといろんな異種体が入った(仮称)茅野まちづくり推進機構、みたいな組織を作りまして、その下で住んでよし訪れてよしのまちづくりを進めていく。ある程度の結果が10年後に出ていることを期待しているところでございます。ここに書

いてはございませんけれども、これをやっていくポイントは人だろうと思います。これに関わる面白い人が来てくれるネットワークがこの裏にはあるんだろうなと感じています。

3点目が世界に誇れる教育環境でございます。皆さんご存じのとおり、読書活動は非常に評価を得ています。これをさらに進めていく。それから幼保小連携。この教育も茅野市は進んでいまして、昨年12月本を刊行いたしました。ぜひ参考にしていただけたらと思います。そしてそのあと教育長から話をさせていただきたいと思いますが、来年4月から小中一貫教育に取り組んでまいります。それから英語教育やICT教育、これはグローバル社会の中で活躍できる子どもたちを育てていかなければいけない。ロングモントとの交流あるいは中学の台湾との交流を進めています。それと縄文科教育、縄文プロジェクトの一環として取り組んでいただいておりますけれども、非常に便利な教科でございます。言いかえれば何でもできるんです。それぞれの学校において特色のある取り組みが始まっていますし、非常に考えて取り組む力が身についています。そんな世界に誇れる教育が10年後はもっと地に足がついた取組になっているように展開していることを夢見ているところでございます。

そしてそれを進めていく上であらゆる主体による協働のまちづくりのために、11月にゆいわーく茅野オープンいたします。であう、つながる、創造するというので、それぞれの団体がより開かれて自立をする取組をすることで協働のまちづくりができてくる。そんなことを夢見ているところでございます。これも室長の方から若干補足をさせていただきたいと思います。こういうことを10年後展開することで、茅野市はこれからも元気なまちであり続けるということを夢見ているので、今日は皆さん、いろんなことをお聞かせ願えればと思います。それではまず教育長の方からお話を。

教育長：改めまして皆さんこんばんは。3月まで永明小学校に4年間いました。そのときに入学してきた子どもが4年生。それで学校の帰りに市役所の噴水のところで何人かの子どもが一休みしていました。それからもう少しして夕方何人かの子どもたちが自転車ですぐぐると回っていて本当に幸せな気分になりました。子どもたちは私たちの宝、地域の宝でうんと大切に育てていかなければいけないと思います。そのために21世紀を生きる子どもたち、それが小中一貫教育の目的になります。子どもを育てることです。皆さん一番疑問に思われることはじゃあ通学区はどうなるかということですが、現状のままです。茅野市がこれから進めていこうとする小中一貫教育の大きな特徴は、読書・図書館教育とありますが、これは全国的に非常に高く評価されています。毎年文部科学大臣賞を受けています。それを一番の基盤とする中で昨年度幼保小連携教育を始めました。そしていよいよ来年の4月から小中一貫教育がスタートします。目的は子どもたちが育つ教育環境を作っていくことです。その中で大きな柱が二つあります。小学校一年生から中学校三年生まで、子どもたちの発達の段階を、小学校一年生から四年生までをひとくくり、五年生から中学校一年生までをひとくくり、中学校二年生から三年生までをひとくくり、発達の段階があります。今まで小学校六年生でブツッと切れていました。それから保育園と小学校の間で切れていました。小中一貫の方では切れないようにやって

いく。小学校五、六年、中学校一年の教員が、互いに出前授業をしたり、互いの学校を訪れたり、一緒に研究したりします。

もう一つ豊かな学び合い学習というのがあります。今まで小学校の教え方と中学の教え方がガラッと変わってしまいます。そして先生によって教え方が変わってしまう。その中で茅野の小中一貫教育は授業のやり方、授業観を、学年によって差はあるけれども、共通の考え方でやる。どんな授業かという、子どもたちが仲間と話し合い、自分で問題を解決していく。先生に教えこまれるのではなく、自分たちで考える、そういう授業を行います。4月からすべての学校で行っていきます。質問がありましたらお願いします。

市長：山田教育長の思いを語っていただきました。あとゆいわーく茅野について、室長の方から説明をいたします。

市民活動センター準備室長：よろしく願いいたします。11月にゆいわーく茅野がオープンしますが、そのときのパンフレットをお配りしています。であう、つながる、創造するをキャッチフレーズに、縁から始まる結で紡ぐまち育てということで、まちの課題をあなたにあった手法で解決し、まちを元気にしていくまちづくりの拠点です。ゆいわーく茅野で仲間づくりや居場所づくりができ、ぬくもりある地域が育つ。自分も相手も社会も育つ、共育ちの場として、さまざまなまちの中にある団体、組織、機関、そういったものが、これまではつながっていたところもたくさんあったと思いますが、単独で課題を解決している、活動をしているところもたくさんあったと思います。ゆいわーく茅野を拠点にして、いろんな団体、個人、組織がつながり合って、まちの課題を解決していく場所になったらいいなと思っています。クローバーがあるんですが、あらゆる主体による協働のまちづくりに必要なキーワードとして、自立、自己実現、共存、協働をテーマに、地域のことをみんなで考える講座や学習会を開いたり、皆さんに役立つ情報コーナーを設けたり、皆さんがこんなことやってみたい、困っているという相談を受けて実現する支援をしていきたいと思っています。それからみんなにやさしいまちにしているために応援しあえる関係づくりが生まれてくるような、気軽につながる自主的な交流をしていただけるように考えています。施設は障害者でも高齢者でも気軽に来ていただける機能が盛り込まれています。今まで市民会議の中でいただいた意見が散りばめられています。貸館だけでなく、いろんな人がつながる場所として、自分のやっていることが少しでも誰かに喜ばれて元気なるような場所を作っていきたいと思っています。地域の人元気になることがまちが元気になる一つだと思います。一緒にいろんな悩みをお聞きしながら相談の中でネットワークを作っていく拠点にしていきたいと思っています。また11月13日に誕生祭を行います。学校、地域、行政、産業協働のイベントを企画しています。主体的に運営委員さんが動いてくださっていて、いろんな体験やコーナーがあります。さらに市民活動の紹介もしていきます。今登録団体が100近くあります。様々な活動を知っていただいて、何か自分のやっていることの助けになればと思いますのでぜひ足を運んでいただければと思います。講演会も予定しています。皆



さんでお越しいただいて市民活動って何だろうということをご共有認識で持っていただけたらと思います。まずは見に来てください。

市長：ゆいわーく茅野と茅野市の小中一貫教育について説明をさせていただきました。ちなみにあの建物を茅野市ひと・まちプラザと言いますけれども、10月31日から社協、中部保健福祉サービスセンターが業務開始します。それでは未来予想図は3つのテーマに絞らせていただきましたが、これから大いにかかわっていただきたいと思います。特に若い方々はこれから住み続けるまちをつくっていくので、積極的に意見を述べていただければ嬉しく思います。どんな分野でもかまいません。ご発言をお願いいたします。

市民：教育行政についてお聞きします。先ほど小中一貫校の話が出てまいりました。おそらく教育委員会の中で、現在の教育行政のメリットとデメリットがたくさん出てきたと思います。その結果、一貫校にした方がメリットが多くなったと思います。教育委員会が出てきたメリット、デメリットを少しお話していただきたい。同時に長峰中学校は金沢、宮川小学校の子どもが来ているわけで、現実には小中一貫校をやると金沢と宮川の小学校が同じような教育が進んでいくかということ。

それから10年後もっと少子高齢化が進んでいくと思います。そのとき学校の統廃合の話が出てくると思います。お金もかかります。その点もお尋ねします。

もう一点、宮川小学校にときどきうかがいます。耐震工事が恙無く終わっているようですが、トイレを直していただけるんだろうかと期待しておりましたが一向にその話がありません。子どもたちはなかなかトイレに行くのを嫌がっているようです。暗い臭いところをどう考えているのかお尋ねします。

教育長：まずデメリットの方を申し上げたいと思います。信濃町の場合、5つの小学校を統廃合して1つの学校を作っています。そうしたときにひとつひとつの学校の伝統、良さが統合によってまとめられちゃっています。茅野市の場合、宮川小、金沢小で作っていた素晴らしいものがあります。その中で統廃合する形での小中一貫教育をすると大切なものが失われてしまいます。それをどうするかを議論してきた中で、通学区は現状のままでそれぞれの学校が持っている校風、伝統を生かしながら中学校を目指して方向を作っていこうと。ひとつのデメリットをメリットに転換していくためこの小中一貫教育を考えました。特に授業をできる限り共通化していく。ある先生は一方的にべらべらしゃべり続けている。ある先生は体験的な活動をさせている。こういう違いがあっちゃいけないと思うんです。多少時間がかかりますが、みんな子どもたちを育てるために標準化、平準化する教え方をしていく。

それから10年後人口減少による統廃合の問題が出てくると思いますが、ここからは私の考えになります。私は統廃合はしたくありません。最後の一人になっても学校を残していきたい。諏訪の中でも統廃合されています。地域の学校である以上ひとりになっても残していきたい。

宮川小学校のトイレのことですが、早速よく調べ直して対策を立てていきたいと思います。

市長：統廃合の話は私も同感でございます。生徒がいなくなれば別ですけども、いなくなっても残せと金沢の人は言うのではないかと。御柱の文化は金沢が旗を立てて勝負をするわけですよ。その寄りどころが小学校とっています。特に茅野においては地区の持つ意味はでかいと思います。地区が存在する限り小学校はシンボルであり続けてもらいたいなと思います。こどもがいなくならないようにしていかなければいけないともっています。それからトイレのことは永明小学校も同じ問題を抱えています。におわないトイレの対策はしていますが、抜本的に解決しなければいけないとは思っています。今、公共施設の総合管理計画を作っています。その中でいつ頃大規模改修するか計画を立てています。それに合わせて、なかなか多額の費用がかかりますので、それに合わせてやっていく。たとえば宮川小学校は建て替えという方向が決まったとしたら、何年後かになり、その間は待ってられるのか、そこまでにいろんな手立てで対策するのか、計画をしていますので、そういうメールはたくさんいただいておりますので。招致はしております。

市民：宮川地区はフォッサマグナが通っているわけですけども、市防災対策課のシミュレーションでは非常に大きな倒壊率になっていますよね。地区によっては相当の死者数になる。大地震はいつくるか、生きている間に来ないかもしれませんが、一旦起きた時に避難誘導したり炊き出ししたりする活動については各自主防災組織で訓練したり活動していますが、起きる災害をいかに軽減するかの活動をしているのは、日本を見まわしてもそんなにはないですよ。津波対策などがありますが、地震については技術的な知見が進んでいないこともあります、少し研究いただいて、この地区のどこに断層があるということは掴まなければいけないのではないかと。現在分かっている地層分析やコンピューターシミュレーションを駆使するとどこが崩れてどうなるか出るとすれば、時間をかけても災害規模を小さくするために、ここは崩すとかコンクリートを打っておこうとかできるので、定時は幸せづくり、まちづくりすればいいですが、大地震が起きたら大多数は死んで生活もままなくなりますので、何か手が打てることではないかということをご検討いただけないかなと思います。

市長：ありがとうございました。確かに起きてしまった後の対応はいろいろ考えておりますけれども、起きる前の、地震はなかなか厄介な部分かなと思います。大きな断層はここに走っているわけですけども、茅野の横内、宮川から金沢にかけては南海、東海地震でなくして、直下型地震が起きた時に大きな被害が出るシミュレーションをしています。防災ガイドブックが皆さんのところに行っていると思いますが、赤い色で出ているところが一番危険だということでございます。ここもそんなに安心ではないのかなと思います。いろんな対策できることはしていかなければいけないと思います。しかしなかなかハード的なものやっつけていくことは市の単費でやっつけていくことは制約が出てきますので、いろんな補助金も出ていますけれども、それ

もしていかなければいけない。それと家が倒壊しても死なないという取り組みも必要かなと思います。耐震化をぜひしていただきたいわけですが、何十年も住んでいて次は建て替えだよというお宅に耐震化といっても、すぐ百万、二百万とかかかってきますので、耐震シェルターというのを斡旋しています。ただし残念ながらまだ二件かな。これは簡単にいうと部屋の中に強固な檻を作るといっても、その中で寝たりすることができるので、家は潰れる、でもそのスペースは絶対つぶれないので命は助かる。そんな取組で補助金も用意して待っております。熊本の例を見てもぺしゃっとつぶれていますので導入をしていただけたらと思います。起きる前の対策としては南海、東海地震を想定するよりも熊本地震の例などを参考にしていかなければと思います。

副市長：私の方で補足させていただきます。市長が申しましたようにイエローゾーン、それからレッドゾーンという区分けをしております、いろんなデータから茅野市には居住地域の中にあるということは掌握しております、やはりレッドゾーンはいろんな制約があります。県と協議する中で、なるべくイエローに持っていく取組をしています。ここで安国寺の地区がレッドゾーンになっていたんですが、県のご協力で上部に大きな堰堤を作っていただいてレッドゾーン解除になっております。そんなことも連携をとりながら、なるべく住んでいる方に影響の少ない、ハード的な対策は取っていききたいと思います。

市長：ほかにありますか。消防の若い人はどうだい。

では私の方から聞きたいんですが、今日市内の消防団員の方からメールがきて、一生懸命仕事をしていると。操法の時は本当に大変だと。眠くなるし、うつらうつらと運転していると事故になるかもしれないし、必要なことはわかるけれども本当に大変でどうしたらいいでしょうということがきて、言わんとしていることはごもつともだと思います。そういう中で消防の皆さんの使命感、義務感、地域の安全は自分たちで守るんだという思いでやってくれていることに、本当に感謝するわけですが、実際問題にそういう声を聞く中で、実際にやっている皆さんは、どうなれば活動しやすいか、どうしたらいいかというアイディアはないかい。昔に比べてほとんどの方が勤め人だし、消防団としても考えていろいろ取り組んでいると思うんだけど、分団長にまわします。

市民：個人的な見解で話をさせていただきます。宮川分団、149名おります。とても指揮の高い分団でして文句ひとつ言わずに若い皆さんが集まっています。なかなか分団長に本音をいうことはないわけで、部長の間ではこうしたらいいという意見はあろうかと思いますがけれども、三役に何か文句とか意見をいう機会が少ないので、今後私の任期が終わるまでには、若い団員の意見をしっかりと聞いて、市長に伝えたいと思います。それでは私に代わって副部長隊長が一言意見を言っていただきたいと思います。

市民：宮川地区に住んでいて、東京に行き、また戻ってきたわけですがけれども、だいぶ昔と変わって小学校、地域の建物の劣化が見受けられます。これから子どもたちが育っていけるような地域づくりをぜひお願いしたいなと消防団一同願っております。

市長：どなたでもご発言をお願いします。

市民：ゆいわーくについてお伺いしたいと思います。利用団体が登録申請すると思うんですけども、その利用団体を審査する機関はどういうものなのか。どこで審査して利用団体を決定するのか。また決定するのにどういう規約、規則を基にするのか。

市民活動センター準備室長：利用団体については条例の中に、こういう人は使えませんというものは条例で判断します。グレーゾーンも出てくると思うんですが、それは運営委員会で審議していくという風に考えています。どんなところも使えないという話もした方がいいですか。

市民：はい。

市長：基本的に善良な市民であれば使えると考えていただきたい。ほとんどの市民の方が使える。使っていただきたい。会社でも使える。たとえばAという企業でゴミの清掃をやりたいと。ボランティア活動で。その打合せをしたいということでも使えます。企業でそこで金儲けをしようというならだめです。社会活動、市民活動、慈善活動をするという、普通に社会のために活動するというのであれば基本的に皆さん無料で使えますのでぜひ足をお運びいただきたいと思います。

市民：今年安国寺橋の下でホテルが結構出ていたんですけども、観光にはなかなか結びつかないと思うんですが、できれば茅野の運動公園近辺でホテルが出るようになれば茅野市のイメージとしても、水がきれい、空気がきれいということと、運動公園近辺は夜駐車場が空いていますので、将来ホテル祭りといっても観光バスでも呼べると。それができないかなと。ジャブジャブ池をきれいにしてホテルが住めないかなと。ホテルの専門家を呼んでみて、たとえば宮川小学校でカワニナを育てるとか。観光にも茅野市のイメージにもなると思います。

市長：ありがとうございます。ホテルもいろいろなところで取り組んだ経過があると思います。ジャブジャブ池でもやったことあるんだよね。それから本町でも河川敷でやったことあるし、このあと西山で取り組んでいるようですのでお聞きしたいと思います。条件が合わないとカワニナを放してもそれが死んじゃうとかいろんなハードルがあると聞きます。そういうホテルが舞う公園になれば辰野までいかななくてもいいもんね。いいなと思いますけれども、10年くら

い前ですか、菊沢の村中を通るセギにもすごくホタルが出たんですが、翌年になったらいなくなつたという例もあるようです。西山のホタルの取組を話せる方はいますか。

市民：鏡湖で水質管理をしておりますけれども、ヘイケとゲンジ、二種類あるんですが、両方が生息するということで毎年カワニナの生育から始まっているいろんなものを春先から育ててきて、通年でホタルが育ってきております。一時減ってしまったんですがだんだん増えてきて、今年もホタルの見学会を、生息範囲が広がってきて、神奈川の有名な先生に来ていただいているいろいろやっております。

市長：かなり見ごたえがあるくらい飛ぶんですか。

市民：はい飛びます。

市長：では今度見に行きます。

市民：来年ですが。

市長：ぼちぼちいいよと教えてください。

ほかにどうぞ。

市民：茅野市から外来植物についての駆除について全戸にチラシが配布されたんですが、現実的には気にしていらないお宅が多くて、その駆除がされないなと思ひまして。衛生の役員さんに提案して出払いでやってみたらどうかと言ったんですが、蔓延っていてやり切れるものではないかなと。役員さんとまわって確認してみたんですが、10年かかって蔓延ってきた感じですが。それからそのチラシを見た後、あちこち見ていると、本当に上川の土手とか、やすらぎ橋の歩道にも生えている。区の所有でないところにもいっぱいあって、本当に5年、10年経てば大変だなと思うんですが、茅野市でもビラを配るだけでなく、もうちょっと手を打っていただけないかなと。区を通じて衛生委員さんから区全体でやっても10年くらいかかると思うんです。何か茅野市でもやり方を変えてもらえたらと思います。

市長：ありがとうございます。河川敷に生えているのはアレチウリだと思いますし、ひばりヶ丘にあるのはオオキンケイギクですかね。今茅野市は3つ、アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウが山の方まで分布してしまひて、この駆除を一昨年ごろから取り組んでいまひす。ただ範囲が広いので地元の環境自治会の皆さんにお願いしたり、市の職員もやったりしていまひすけれども、これを本当に撲滅するなら市民全員で環境の日みたいなことに取り組まなければできないだろうなと思ひます。そこは市の方でもどうひうことができるか考えていまひす。

ただ今日ご意見をいただきました。より強力に取り組みたいと思います。ただオオキンケイギクなんかはわざわざ作っている方もいらっしゃるしまして、そこを勝手に取るわけにもいきませんし、山の方では誰の土地か分からないところがあったり、かなり大変なことですからしっかり対応していきたいと思います。10年後に外来植物ゼロと言えるかね。無理と言っていたら進まないで、今日担当の部長もいますので、聞いていますからよろしくお願いします。

市民：除雪のことで心配なことがありまして、道はきれいになっていいんですが、除雪しきれない場所があって、雪山になっている場所があって、子どもの通学が心配なのと、自分の実家に行くまでに除雪ができていなくて、年寄りが多くなると除雪しきれなくて大変だったことがあった。そこでどこにどういう風に除雪をやっていくかの情報が入っていないというか、西茅野は新しい世帯があるんですが、わからなくて新しい人たちだけでやっていたので、わかりやすく誰もが協力できる体制を作っていたらと思います。子どもの通学で雪山をつくらない状況も作らないようにしていただけたらと思います。

市長：ありがとうございます。この除雪も大きな取組でして、雪かきも高齢社会、人口減少になってくると切実な問題になってきます。基本的に茅野市の考えは、区内、村中は区の皆さんで自分の周りはやっていただく。村と村をつなぐ幹線道路は市の除雪車でやっております。いろんな除雪の要望が来るんですが、今200kgの除雪を雪が降ればやっています。なかなかこれ以上増やすことができなくてご要望に応えられないことがあるんですが、西茅野区さんでも村中は区でかいてもらう。村と村の間は市がかく。そのあたり区長さんに聞いていただけたらありがたいなと思います。それと通学路は、村中は地元の人たちをお願いしているところです。運動公園の歩道とか近くのうちがないところの通学路はそんなにないと思いますが、市の小さい除雪車でやっていますけれども、歩道の雪かきができていないという苦情は毎年いただきます。回答がいつも同じで申し訳ないんですが、市でかけというの、それなりの金をかければできるんですが、そういうわけにもいかない現状があります。具体的にどこがどういう形であるか、歩道に雪山を作れば大変ですからそこは雪山にしないかき方を区の中で話し合っていたきたい。どうしても西茅野さんも宮川茅野に出てくる道で市が対応しなければいけないものがありましたら除雪路線に組み入れていけるか検討していきたいと思います。

市民：地域コミュニティのさらなる充実ということであるんですが、区、自治会でこれをやるというはかなり大変だと思うんですね。各項目について、市としてはどういう機関を通してどういう補助とかをできるかを示していかないと、区長さんに示しても「区でできるかい」という話になると思うんですよ。だからこれをやるについて、市はどのようなフォローをしていくかを明確にいただければと思います。

市長：ごもっともなご意見をありがとうございます。区、特に区長さんにやってくださいとい

うわけではございません。ただこれから10年後はもっと区の機能を高めておかなければだめなんじゃないかなと思っています。たとえば子育て支援で、紙芝居、子どもの預かりというのがありますが、地域の教員のOBの皆さんに塾をお願いしたり、防災についても防災リーダーを、リーダーの下で複数の組織を作ってほしいかなと思っています。何かあった時に区長さんと連携して行動していく。それから見守り、健康づくりなど、機能分担をしていく必要がある。また市もいっしょにやっていく必要があると思いますが、公民館を有効に利用できないかなと思っています。昼間は普通開まっているでしょ。夜は区会とかあるけど毎日ではない。せっかくある公民館を拠点としてやれば、昔は小遣いさんとかいたじゃないですか。誰かにお願いして、経費負担は市がとか、そういうことを考えていかないと、地域全体で支えあうことはできないんじゃないかなと思っています。どこに何をということとは答えられないですが、市としても公民館に常駐のおじさんがいて、いろいろ管理してくれるならその賃金は市でとか考えられるし、考えていかなければいけないと思います。公民館ではないんですが、糸萱区では「萱の和」だったかな。昔の農協の施設を使って集いの場にして、誰でも好きな時に子どもでもじいちゃんばあちゃんでもサロンにしてくださいという取り組みが始まっています。これからそういうものも増えていこうし、そういう仕組みを行政もテコ入れしてやっていかなければいけないだろう。そんなことを考えています。

地域の課題も含めて、未来予想図でもかまいません。ご意見をお願いします。

市民：教育と言っても学校における学業という観点だけの教育だけではないですよ。学校以外の家庭での教育、地域における子どもたちのあり方は非常に大きいんですよ。5, 60年前のことを考えれば、学校から帰るとすぐ稲刈りをやらされたりするわけですけども、その中で生きる力をつけることがあったわけですよ。今はどうしても学業に目がいってしまうんですが、日本の大企業も終身雇用が崩壊しましたよね。いかに勉強してもいい大学に入って、いいところに就職しても一生安泰というは幻想になってしまいました。やっぱり手に職をつけることを子どもたちも気づいていかないとこれから先生き延びることは辛いんじゃないかなと思うわけです。もう20年くらい前から東京に「キッズニア」という子どもたちが体験するサービス拠点がありますよね。そこでは子どもたちが大人のふりをして警察官とか看護婦さんや喫茶店をやったりいろんな体験をできるようになっているんですが、非常に人気で順番待ちで小学生たちが、半分はままごとなんですけど、体験をするんですね。茅野市において特区において茅野市のまちづくりを大きく伸ばすのに何かいいのはないかなと考えていると、ひょっとしたらキッズニア特区を展開できないだろうか。夏休みに喫茶店でウェイトレスをしたり工場で受付をしたり市役所で受付したり、そういうことをやって実社会の中で仕組みや挨拶やどういうことをしちやいけないとかを、小学校4年生くらいからやってみれば面白いのかなと。ただそのためには労働基準法だとか学校教育法とか児童福祉法だとかいろんなものに抵触しますので、ある程度特区として認めてもらわないとものにはできないわけですが、思い切ってそれをやって、いわゆる茅野らしい特区文化と言いますか、学業教育における特区文化を考えるというの

を、思いつきの単なる意見ですが。

市長：ありがとうございます。茅野どんばんで職業体験のジョブタウンをやっていますけれども、本当に盛況です。いろんな職業を体験するというのを見ても、今の提案は大事なことだなと思います。いきなり特区までいけるかというのは別として仕事体験、自然体験を取り組んでいく必要はあると思います。縄文教育の中でも若干触れていますけれども、ご意見としてお聞きしておきます。

教育長：中学生の場合は職場体験学習ということであらゆるところ全部でやるとしています。さて小学生の場合の教育では、縄文科学習との関連、総合生活科との関連で考えさせて検討させていただきたいと思います。ただ言われたとおり、どういう体験をしていくか、どう自分の生き方に結びつけていくかはこれからだと思います。

市長：よろしいでしょうか。私の方からお願いをいたします。お手元に縄文美土偶グランプリというのがあります。今、土偶の日運営委員会という、民間の組織ですけれども、19体の土偶の中でどれが一番美しいかというコンテストをやっております、最新の情報で一位が縄文のビーナスです。587ポイント、二位が山梨の土偶で381ポイント。昼の段階では100ポイント差でしたが、今は200ポイント差になりました。皆さん頑張って投票してくれたかなと思います。スマホかタブレットでないと参加できません。今スマホをお持ちの方とりだしてもらえますか。美土偶で検索してください。QRコードでもいいです。その中に一覧表があってNo15にビーナスがエントリーしていますので、この土偶を応援するところを押してもらおうと投票になります。ぜひ10/9まで、グランプリに輝かせたいと思いますので、今日皆さん自身がやるだけでなく、ガラケーの方も家に変えれば子どもはスマホですので、言っただいて、職場でも仲間にも言ってもらって、よろしくお願ひします。最新は617ポイントに増えました。二位は383ポイントで2ポイントしか増えていませんが、ビーナスは2時間で30ポイント増えました。ぜひご協力を。1回しか投票できませんので。ちなみに女房に自分の選挙より頑張っていると言われました。

ほかにはよろしいですか。それではちょっと早いですが、今回のまち懇は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

企画総務部長：本日はありがとうございました。貴重なご意見、ご提言をいただきましたので、次期総合戦略やまちづくりの参考にさせていただきたいと思います。それではこれでまちづくり懇談会を閉じさせていただきます。お帰りの際にアンケートのご協力をお願いいたします。本日はありがとうございました。